

検討方法について

1 学校配置の検討に係る基本要件

(寒川町立小・中学校適正化等基本方針(以下、「基本方針」という。)より抜粋)

(1) 2021年に策定された「寒川町公共施設再編計画」を踏まえて検討を行います。

①町全体で8校から6校への再編

公共施設再編計画における検証結果として、「現状の小中学校8校から、将来は6校への再編が適正と考えられる」とされ、その内訳としては小学校4校、中学校2校とされていることから、小学校4校・中学校2校の組合せによる配置を基本として検討を進めます。

②財政的負担の視点

財政面を考慮すると、新たな用地取得は難しいため、既存の学校の位置を基本として検討を進めます。

(2) 子どもたちの望ましい教育環境を整える

①児童生徒の居住分布に応じた配置バランスの取れた学校配置を目指します。

②児童生徒の負担面や安全面を配慮し、適切な通学距離が確保できる学校配置を目指します。

③適正な学校規模を確保できる学校配置を目指します。

2 検討方法と進め方

学校の配置については、様々な配置案が想定されます。

そうした中、令和4年3月に実施したオンライン地域懇談会やパブリックコメントでは、様々な可能性について検証し、最終的な配置案に至った理由だけでなく、その検討経過を明らかにすることで、町民への説明責任を果たしていくことになる等の意見が出ています。

これらの意見を踏まえ、想定される配置案について、配置条件を明確にしたうえで、比較検討をしていくこととしました。

比較検討の際には、段階を追って絞り込んでいくことを想定しており、まず、第1段階として、子どもたちの望ましい教育環境を確保するため、配置バランスが取れているか、通学距離が適正か、学校規模が過小・過大とまらないかといった視点で比較し、数候補に絞り込み、その後、各配置案の課題等を明らかにしたうえで、さらに詳細な比較検討を進めて行く予定です。

3 学校配置候補の考え方

学校配置の検討に係る基本要件に示したとおり小学校を4校、中学校を2校の配置とした場合の候補数は、小学校を4校とする配置案は5案、中学校を2校とする配置案は3案であるため、小・中学校を合わせると、全15案の学校配置候補となります。

4 学校配置候補案

子どもたちの望ましい教育環境を確保するため、次の3つの視点により比較検討することとします。

(1) 配置バランス

児童生徒の負担軽減のため、可能な限り町内にバランスよく配置することを目指します。

具体的には、小学校は、南部・中部・北部に配置が望ましく、中学校は南部・北部に配置することが望ましいといった考えのもと比較します。

(2) 通学距離

学校の配置にあつては、可能な限り児童生徒の負担面や安全面を配慮し、小中学校の適切な通学距離（小学校：概ね 2Km 以内、中学校：概ね 3Km 以内）を全地域において確保する必要があります。

<基本方針16ページより>

本町の交通事情等の状況を踏まえると、安全上、自転車通学は困難であることから、徒歩による通学を原則とします。また、徒歩での通学を前提とした上で、児童生徒の体力、生活に対する影響などを考慮した結果、望ましい通学距離は、国が示している基準の半分である、小学校では片道おおむね 2 km 以内、中学校では片道おおむね 3 km 以内と考え、この目安に基づく通学距離の実現をめざします。

(3) 適正な学校規模

適正な学校規模（12 学級から 18 学級）を確保できるよう、過小・過大とならないように児童生徒の居住分布を考慮して配置する必要があります。

・児童生徒数と学級数の各校の推移（基本方針3ページ抜粋）

		寒川小学校	一之宮小学校	旭小学校	小谷小学校	南小学校	計
2021年	児童数(人)	495人	363人	689人	462人	567人	2,576人
	学級数	18	12	21	16	18	85
2060年	児童数(人)	321人	194人	636人	378人	453人	1,982人
	学級数	12	6	22	12	18	70

		寒川中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	計
2021年	生徒数(人)	283人	598人	379人	1,260人
	学級数	9	15	11	35
2060年	生徒数(人)	159人	509人	328人	996人
	学級数	6	15	9	30

上記の表に示すとおり、2060年の推計では、小学校の児童数をみると、旭小学校と小谷小学校の児童で約半数を占め、北部地域に児童が多く分布していることから、北部地域の小学校を1校の配置とした場合、過大規模となる可能性があると考えられます。